

令和2年度 事業計画書

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和2年度 事業計画書

I. 埋蔵文化財調査事業

1. 調査事業

文化財の保存、活用を目的として、埋蔵文化財の発掘調査及び出土遺物の整理等を実施する。

(1) 大阪府域

- ①国土交通省 近畿地方整備局がPFI法に基づき施行する大阪第6地方合同庁舎（仮称）整備等事業地内の調査

大坂城跡・難波宮跡〔大阪市中央区〕 (遺物整理)

- ②西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪東事務所が施行する高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）建設事業地内の調査

船橋遺跡（1・2）〔枚方市〕 (遺物整理)

船橋遺跡（3）〔枚方市〕 (発掘調査) 1,150 m²

- ③西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪西事務所が施行する高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）建設事業地内の調査

上牧遺跡〔高槻市〕 (遺物整理)

梶原南遺跡（2）〔高槻市〕 (発掘調査) 3,100 m²

梶原南遺跡（1・2）〔高槻市〕 (遺物整理)

- ④大阪府都市整備部 枚方土木事務所が施行する東部大阪都市計画都市高速鉄道 京阪電気鉄道京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業地内の調査

伊加賀遺跡〔枚方市〕 (発掘調査) 750 m²

- ⑤大阪府都市整備部 八尾土木事務所が施行する寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）地内の調査

大県郡条里遺跡（6）〔柏原市〕 (発掘調査) 2,800 m²

大県郡条里遺跡（7）〔柏原市〕 (発掘調査・遺物整理) 1,300 m²

大県郡条里遺跡（8）〔柏原市〕 (発掘調査・遺物整理) 900 m²

- ⑥豊中市が施行する（仮称）庄内さくら学園整備事業地内の調査

庄内遺跡〔豊中市〕 (発掘調査) 2,150 m²

⑦枚方市 上下水道局が施行する中宮浄水場更新事業地内の調査

禁野本町遺跡 [枚方市]

(報告書印刷)

⑧門真市が施行する門真市幸福東土地区画整理事業地内の調査

普賢寺遺跡 [門真市]

(発掘調査)

6,000 m²

⑨民間事業者が業務代行者として施行する J R 島本駅西土地区画整理事業地内の調査

尾山遺跡 [島本町]

(発掘調査)

7,300 m²

⑩民間事業者が業務代行者として施行する北部大阪都市計画事業 成合南土地区画整理事業地内の調査

金龍寺旧境内跡 [高槻市]

(発掘調査・遺物整理)

4,200 m²

⑪民間事業者が施行する（仮称）茨木市城の前町（商業用地）開発事業地内の調査

太田遺跡（3） [茨木市]

(遺物整理)

⑫民間事業者が業務代行者として施行する東部大阪都市計画事業 星田北土地区画整理事業ならびに星田駅北土地区画整理事業地内の調査

平池遺跡・星田駅北遺跡 他 [交野市]

(報告書印刷)

⑬民間事業者が業務代行者として施行する松原市新堂4丁目土地区画整理事業地内の調査

新堂遺跡 [松原市]

(報告書印刷)

⑭民間事業者が施行する堺市美原区黒山東事業地内の調査

黒山遺跡・太井遺跡 [堺市美原区]

(発掘調査・遺物整理)

15,800 m²

総事業件数 19 件

総調査予定面積 45,450 m²

(平成 27 年度 総事業件数 26 件 調査実施面積 89,865 m²)

(平成 28 年度 総事業件数 25 件 調査実施面積 31,317 m²)

(平成 29 年度 総事業件数 24 件 調査実施面積 30,836 m²)

(平成 30 年度 総事業件数 21 件 調査実施面積 59,103 m²)

(令和元年度 総事業件数 26 件 調査予定面積 54,931 m²)

(2) 大阪府外

①和歌山市が施行する市民会館（仮称）市民文化交流センター建設事業地内の調査

和歌山城跡第34次〔和歌山市〕 (遺物整理)

2. 技術支援

大阪府外で実施されている下記の発掘調査について、調査主体である各法人からの依頼に基づいて職員を出向させ、発掘調査の技術支援を行う。

①公益財団法人 かながわ考古学財団が実施する第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速

道路）建設事業ならびに関連事業地内の調査（平成27年度～） 2名

II. 資料活用事業

文化財の資料活用を図るため、次の事業を行う。

1. 文化財講演会事業

(1) 文化財講演会

一般府民を対象とした講演会を開催する。講演会に際しては、諸団体や民間企業等との連携によって効果的、効率的に事業を実施する。

(2) 連携講演

公民館や学校法人等との依頼や連携による講演を実施する。

2. 現地説明会・現地公開事業

埋蔵文化財の発掘調査成果を報道機関等に資料提供し、地元住民をはじめ広く一般府民に公開し文化財保護の啓発を行う。また、現地説明会・現地公開では、地元小学校生徒の見学を促進するほか、発掘体験や遺物に触れるコーナーを設けるなど、子ども達にも発掘調査や歴史に興味をもつような工夫を行う。

3. 文化財体験学習事業

(1) 体験学習を通じての学校教育支援

小・中・高校が実施する職業体験学習等を受入れ、学校との連携を強め、教育の発展に寄与する。

(2) 発掘調査現場等の見学受け入れ

発掘調査や整理作業の現場を見学したいとの一般府民の要望がある場合、日時・場所を定めて現場等への見学を受入れ、埋蔵文化財調査の理解を得る。

(3) 子ども向け体験学習

各博物館を通じて、商業施設等において、子ども向けのワークショップを実施し、文化財に対する理解を促進する。

4. 文化財展示会事業

(1) スポット展示

発掘調査の最新成果等を地元市町村等の協力を得て、各博物館で適時展示、公開する。

また、展示内容に即した講演会なども企画する。

講演会等の機会を利用して、実物資料を間近に見ていただく機会を設ける。

5. 文化財広報事業

(1) 事業年報の編集発行

(2) ホームページによる情報提供

インターネットを通じて、当センターの発掘・調査、イベント、出版等に関する情報をいち早く一般に公開し、文化財の普及を図る。

6. 文化財資料収集整理事業

(1) 文献および文化財情報の収集・整理

一般府民の利用やセンター職員の発掘調査・整理、研究を進める上で有効な、文化財に関する報告書等の文献資料を収集・整理する。

(2) 文化財情報のデジタル化

これまで報告書に掲載された写真（主にカラー図版）フィルムの長期保存を図るため、スキャニングして画像データ化し、デジタルデータとして活用する。また、奈良文化財研究所が実施している「全国遺跡報告総覧」へ協力し、報告書データベースを提供する。

7. 文化財資料提供事業

(1) 発掘資料の出土品、写真、映画等の貸出

当センターが保管・保有する発掘資料（出土品、写真、映画等）を博物館及び出版社等関係機関からの要望に応じて貸出しを行う。大学生や研究者等の要望に応じて資料調査を受け入れる。

(2) 報告書等の配付

他の関係団体等に報告書等出版物を配付する。

(3) 図書の頒布

博物館図録等を来館者サービスの一環として、一般府民に頒布する。

III. 大阪府立弥生文化博物館事業

1. 展示公開事業

「日本文化の源流である弥生時代を通じて、日本文化を理解する」をメインテーマに、博物館法並びに大阪府博物館条例に基づき、展示公開を行う。

(1) 常設展示

「目で見る弥生文化」の導入ゾーン、「米つくりの始まり」・「新しい技術の誕生」・「ムラ・戦い・クニ」・「弥生人」・「交流」・「死とまつり」のテーマゾーン、卑弥呼像を中心としたシンボルゾーンで、弥生文化をビジュアルに展示する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を拡げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

①夏季企画展「とんぼ玉100人展」

ア. 開催趣旨

ガラス工芸のなかでも、ひときわ纖細な輝きを放つとんぼ玉。本展では、瑞瑞しい感性と確かな技術に裏打ちされた現代作家たちの作品を一堂に集め展示する。

イ. 開催期間 令和2年6月27日（土）～9月27日（日）

②秋季特別展「(仮)弥生の田んぼ」

ア. 開催趣旨

水田稲作は弥生文化のシンボルである。これまでの長い研究の中でその実態はかなり明らかになってきた。しかし、新たな遺跡の発掘や新しい分析手法の導入のたびに、深まる謎も依然大きい。本展では、水田の姿から耕作の道具、さらには収穫して、食すまで、コメに関わる諸問題を現在の視点でみつめ直したい。また、その存在がみえてきた弥生時代の畠作についても考える。

イ. 開催期間 令和2年10月10日（土）～12月13日（日）

③冬季企画展「(仮)泉州を貫く軌跡－阪和電鉄全通90周年－」

ア. 開催趣旨

大阪（天王寺）と和歌山間を結ぶ現在のJR阪和線の前身は、阪和電気鉄道である。1929年に和泉府中まで開通し、翌年1930年には、和歌山まで鉄道が全通となった。全通90周年にあたる今年度に、当時の資料を用いて、阪和電鉄の歴史を辿る旅へ、みなさまをご案内する。

イ. 開催期間 令和3年1月16日（土）～3月28日（日）（仮）

(3) スポット展示

①スポット展示

大阪府内における発掘調査最新成果の展示公開を市町村教育委員会の協力を得て適時実施する。

②弥生プラザ

弥生時代遺跡の速報展示コーナー「弥生プラザ」の展示替えを大阪府内の市町村教育委員会の協力を得て実施する。リーフレットを作成、配布する。

2. 講演会事業

(1) 特別展・企画展関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。

(2) 「木曜大学」などの講座

(3) 弥生時代講座

弥生時代の研究グループ「近畿弥生の会」と連携し、弥生時代の講座を実施する。

3. 学校教育との連携事業

(1) 小中学校の団体見学受け入れ

各学校との連携により、ワークシートの利用を呼びかけ、要望に応じて当館の学芸員や教育専門員が展示解説を行い、展示室での生徒の学習を支援する。

①体験ゾーンの活用

弥生文化に親しみをもってもらうため、小中学生をはじめとする団体利用者に対し、屋外に設置した竪穴住居の復元施設の活用を推進する。

(2) 「博物館 in school」事業

①出前授業

幼稚園から高等学校にいたる学校等を対象に、弥生文化をはじめとした歴史や博物館に、興味や親しみをもってもらうため、教育専門員・学芸員が学校等に出かけ、体験学習等を行う。

(3) 博学連携事業

①博学連携セミナー

教員対象に授業などの学習活動に活かせる内容の特別展解説、テーマ講演等を行う。高校生を対象に長期休業期間中に歴史・文化等に親しみ、興味をもつ機会となる内容

のセミナーを実施する。

②教員の研修、研究団体の受け入れ

教員や研究団体等の研修を博物館に誘致し、連携を深める。

③中学生の職場体験学習

将来希望する職業を実際に体験し、働くことを学び、将来の職業選択の参考とする体験学習の支援を行う。

④大学生博物館実習

近畿圏内をはじめとする各大学からの依頼を受けて博物館実習を行う。

⑤研究事業

他博物館、大学、研究機関、学会、研究会、企業などと連携した研究活動を行う。海外の研究者との学術交流を行う。

4. 「でかける博物館」事業

(1) 出張展示

府有財産でもある館蔵品を有効に活用し、かつ当館の存在を周知するため、府内および近隣府県を含む博物館・資料館などに館蔵品を中心とした出張展示を行う。

(2) 学芸員の出張講演・講座

当館学芸員が出向き、講演や体験学習を実施する。成人の生涯学習を支援する。

5. 「府民が参加する博物館」事業

(1) ミュージアムコンサート

「音楽のきこえる博物館」のコンセプトのもとに、エントランスホールを活用して、子どもから高齢者までが気軽に参加できるクラシック、ポピュラー、邦楽等さまざまなジャンルのコンサートを実施する。

(2) ミニギャラリー

府民の創作活動を発表する場として、エントランスホールを活用し、絵画、写真等の作品展を行う。

(3) こどもファーストディ（みんないっしょに考古学）

大阪府の「こころの再生」施策の一環として毎月第3土曜日に実施する。体験活動を通して、当館ならびに弥生文化を身近に感じてもらうため、弥生文化を中心とした、子どもから大人までを含めた一般向けの体験型の考古学講座を開催する。

(4) ボランティア活動および研修

講演会・ワークショップ・体験学習・出前授業などの事業への支援、年間スケジュールや各展示趣旨の翻訳などの博物館環境整備への支援などを通して広く府民に当館事業に参加してもらうため、継続して学生を含めたボランティアを募集する。なお、館活動を支援するボランティアに対しては、随時研修を行う。

(5) 大学・企業・NPO 法人との協働

各法人と協力し、体験学習等を実施する。また、相互に連携し、出展も行う。

(6) 子ども一日館長

近隣小学校に子ども一日館長の推薦を依頼し、任命する。任命式を開催し、行事の開会宣言をしてもらうなどのイベントを行う。

(7) 絵画コンテスト

当館を身近な存在として捉えてもらうため、弥生時代にちなんだテーマをもとに小・中学生を対象に作品を公募し、優秀作品の表彰・展示を行う。

6. 広報普及事業

(1) 展覧会、イベント開催のポスター・チラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスター・チラシを作成し、学校、公民館をはじめ、各機関に配布する。

(2) 無料入館チラシの配付

出前授業などで学校を訪問した際には、各生徒に家族と入館できる当館の紹介チラシを配布し、博物館に来館するきっかけをつくる。

(3) 広報活動の活発な展開

市町と連携し市町広報誌やホームページ等への当館展覧会、行事案内等の掲載について協力をあおぎ、効率的かつ効果的な広報を行う。館行事を広く周知するため、大阪府教育記者会、堺市政記者クラブ他、各種報道機関等に、積極的かつ広範に資料提供を行う。新規来館者を確保するため、共同で指定管理を担う近鉄ビルサービス株式会社のグループ関連企業の近鉄文化サロンのような講座等を共同で実施し、広報や企画に関して民間の視点から協力を得る。新聞広告やミニコミ誌なども用い、広報する。

7. サービス向上事業

(1) マーケットリサーチの実施

今後の事業展開の基礎とするため、アンケート（一般用・子ども用）等をとおして、

来館者の博物館に対するニーズを把握する。

(2) インターネットホームページ

館行事を広く周知するため、常設展・特別展・企画展の情報・博物館催し物案内を、当館ホームページに掲載する。SNS を活用する。

(3) ミュージアムカレンダー

館行事を広く周知するため、行事予定をカレンダーにして作成、配布する。

(4) 遺跡見学ツアー

新事業の展開とそれにもとづく新たな顧客を開拓するため、民間旅行会社と連携し、日本の弥生文化に関わる遺跡などの見学旅行を企画する。

(5) 音声ガイドの無料貸出

音声ガイド（日本語・英語）および館キャラクター「カイト」と「リュウさん」による音声ガイド（日本語・英語・韓国語・中国語）を用意し、貸出を行う。

(6) 子どもにもわかりやすい解説

館キャラ「カイト」と「リュウさん」によるわかりやすい解説を提供する。

(7) 解説リーフレット・シートの配布、図録等の出版、要覧作成

展示観覧の補助となるリーフレット、解説シートを作成する。展示資料の解説や展示内容の理解を深めるため、展覧会図録等を発行し、関係機関に配付する。また、館の活動を報告し、博物館に対する府民の理解を得るために、事業要覧を作成する。

(8) 学芸員による展示解説

講演会開催日に特別展示室において学芸員が展示解説を行うほか、希望に応じて随時展示解説を実施する。

8. 府施策協力事業

(1) こどもファーストデイ（みんないっしょに考古楽）

(2) 池上曾根史跡公園、池上曾根弥生学習館と一体となった事業

史跡公園や学習館で開催される行事に協力し、体験学習等を実施する。

(3) 他館との連携事業

泉州ミュージアムネット加盟館などと連携して多様なワークショップなどを行う。

(4) 障がい者等への利用援助

支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験を実施する。

(5) 池上曾根史跡公園の活用

池上曾根史跡公園協会の協力を得て、博物館見学者の史跡見学ツアーを実施する。

9. 管理事業

(1) 日常的管理

指定管理共同企業体の近鉄ビルサービスと共に、施設管理年間計画を策定し、定期点検等、施設管理を行う。また、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案する。

(2) 図書資料管理・収集

学術図書の計画的購入など、資料管理し、収集に努める。また、府民の知的財産を充実させるため、開架図書の充実をはかる。

(3) 館蔵資料の貸出し

収蔵資料を幅広く活用するために、他の博物館等からの要請により貸出しを行う。

(4) 学芸研修

職員を会議や研修に参加させ、博物館管理・運営の参考とする。

(5) ミュージアムスタッフの人材育成

人ととのふれあいを大切にし、心地よい博物館を目指して、来館者に対する応対を朝礼等で共有する。

(6) 人権研修・消防訓練

職員の人権研修を実施する。消防計画に基づいて自衛消防訓練を実施する。

IV. 大阪府立近つ飛鳥博物館事業

1. 展示公開事業

「日本古代国家の形成過程と国際交流をさぐる」をメインテーマに、博物館法並びに大阪府博物館条例に基づき、展示公開を行う。

(1) 常設展示

『近つ飛鳥と国際交流』、『古代国家の源流』、『現代科学と文化遺産』をテーマとし、展示する。

(2) 企画展

新規の来館者の裾野を拡げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、企画展を下記のとおり開催する。

①夏季企画展 「(仮) 百舌鳥古市古墳群の時代と堂山1号墳の世界」

ア. 開催趣旨

堂山1号墳は、小規模な古墳ながら多量の鉄製品を副葬していたことで知られています。堂山1号墳が築かれた地域はそれまで有力な古墳がみられないものの、突然ともいえるその出現時期は、百舌鳥・古市古墳群の出現との関連も説かれています。今回の展示では、堂山1号墳出土鉄製品を展示するとともに関連資料を展示し、大型古墳群の出現と関連する小規模墳の様相を考えたいと思います。

イ. 開催期間 令和2年7月11日（土）～9月6日（日）【50日間】

②秋季企画展 「(仮) 古市古墳群の小規模墳－王権麾下の古墳とその被葬者－」

ア. 開催趣旨

世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、多くの人の目を引く大王墓と目される大型前方後円墳の周囲に、陪冢と考えられる円墳や方墳、やや離れてまとまりをみせる小規模墳で構成する古墳群などがみられます。今回の展示では、最近の調査、研究成果や従来から蓄積された資料を紹介するとともに、こうした古墳の被葬者やその役割について考えたいと思います。

イ. 開催期間 令和2年10月3日（土）～11月29日（日）【50日間】

(3) 特別陳列・連携展示

①春季特別陳列 「青山古墳群の埴輪」

ア. 開催趣旨

世界文化遺産に登録された古市古墳群には、大型前方後円墳を頂点とし、大小さまざまな規模で多様な墳形の古墳がみられ、墳形と規模により古墳が造り分けられていると考えられています。今回の展示では、古市古墳群内に所在する、小規模古墳から成る青山古墳群で出土した館蔵資料である埴輪を展示し、古市古墳群

の性格を考えるきっかけとしたいと思います。

イ. 開催期間 令和2年4月25日（土）～6月28日（日）【56日間】

②冬季特別陳列「(仮) 河内の古代寺院を考える」

ア. 開催趣旨

日本列島に仏教が伝わった6世紀以降、各地では7世紀から8世紀にかけて各地で寺院の建立が盛んにおこなわれました。河内は、はやくから渡来文化の定着する環境下で、大和とともにその先達を担った地域でした。この展示では、こうした河内の古代寺院について館蔵資料を中心に紹介したいと思います。

イ. 開催期間 令和3年1月23日（土）～3月28日（日）【57日間】

（4）スポット展示

周辺自治体の調査成果や館収蔵資料のうち未公開資料等、最新情報をスポット展示で発信する。

2. 講演会事業

（1）企画展関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。

（2）近つ飛鳥入門講座・土曜講座

①入門講座「もっと知りたい『ちかつ博』」

常設展示の内容に基づいた基礎的な講座として実施する。毎月第2土曜日を基本とし、12回を予定。

②土曜講座「オーサカ発 調査研究最前線」

学芸員による研究成果に加えて、大阪府教育庁・大阪府文化財センターをはじめ、大阪府内市町村教育委員会などの協力を得て講師を招聘し、最新の研究成果を伝える場として開催する。毎月第4土曜日を基本とし、12回を予定。

3. 学校教育との連携事業

（1）校外学習受入れ・体験学習

校外学習を積極的に受入れる。展示物の見学だけではなく、ペーパークラフト・勾玉工房等のワークショップおよび当館展示品の修羅（古墳時代の運搬具）の復原模造品を使った体験学習、風土記の丘（一須賀古墳群）のウォークラリーを実施する。古墳・飛鳥文化に親しみをもってもらい、また、展示物の理解を助ける。

（2）学校団体利用案内の作成

学校団体が来館する際の利用手引を作成し、利用を促す。近隣関連施設とも含めたコ

ースの提案もすすめる。

(3) 学習用ワークシートの作成

博物館での児童生徒の学習意欲を促し、展示に対する興味を喚起するためにワークシートを作成する。

(4) 古墳の森コンサート

博物館屋上階段広場を利用して、音楽会を開催し、親しみある博物館・風土記の丘にふれ合う場とする。地元高校生の軽音楽部の発表の場となり、他学校との交流の場とする。春季、秋季2回開催する。4月29日（水・祝）、11月3日（火・祝）。

(5) 「博物館 in school」事業

①出前授業

小学校、中学校、高等学校に教育専門員・学芸員が出向き、ワークショップ（体験学習）を通じて、古墳・飛鳥文化の理解に努め、館に親しみをもってもらう。中学校・高等学校ではキャリア教育の一環として博物館の仕事を紹介する。

(6) 博学連携事業

①教員の研修、研究団体の受け入れ

教員や研究団体等の研修を博物館で行うように誘致し、連携を深める。教員研修では学校教育での博物館施設の活用連携を深める。

②大学生博物館学実習および芸術大学実習

各大学から学芸員課程の履修学生を受け入れ、博物館学実習を行う。また、大阪芸術大学のさまざまな実習の場として支援する。

③大学生・高校生・中学生の職場体験学習

大学生・高校生・中学生を受け入れて、博物館事業運営の体験学習を実施し、将来の職業選択の参考となる体験の支援をする。

④地元大学との連携

大阪芸術大学と産学連携活動の場として博物館を活用してもらう。

⑤他博物館等と連携した研究活動

大阪府、奈良県の博物館が連携した「金剛葛城地域博物館ネットワーク協議会」に加盟し、情報・意見交換、共同事業の開催など、相互協力した事業を進める。また、学会・研究会等と連携した活動も努める。

⑥国内・海外の研究者との学術交流

4. 「でかける博物館」事業

(1) 出張講座・ワークショップ

公民館等へ出向き、講演や体験学習を実施し、古墳・飛鳥文化の理解に努め、地域に

おける歴史遺産の普及活動や成人の生涯学習を支援する。また、近鉄グループ等と連携し、近鉄文化サロンのような講座等を共同で実施し、広報や企画に関して民間の視点から協力を得る。

(2) 出張展示

実物資料や写真パネル等、館外での出張ミニ展示を行う。他地域の博物館・資料館との連携による展示や、イベントスペースなどにおける展示も積極的に行う。歴史教育の一助とともに、当館の認知度アップにもつなげる。

(3) 大阪市内等での講演会

当館の活動の府民等への周知と百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録に関する府民意識の醸成をはかる。600名規模程度の会場を設定する。

(4) れきしウォーク（現地見学会）

学芸員の案内による実地での遺跡見学会を実施し、大阪の歴史を学び、来館の機会を促す。各展覧会に関わる見学会の他、大阪府内周辺各地の見学会を実施する。

(5) 地元市町村との連携

地元市町村や自治会等の文化祭等の催しへの積極的な参加をする。

5. 「府民が参加する博物館」事業

(1) 近つ飛鳥ギャラリー

地階広場、1階ロビーの空間を活用し、府民の文化活動を支援する。生涯学習の発表の場として、博学連携などの成果なども含めて、絵画・写真等の展示を行う。

(2) こどもファーストディ

大阪府の「こころの再生」施策の一環として毎月第3土曜日に実施する。家族のコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援する。展示品に関わるもの的工作や、風土記の丘の木の実や枝等を利用した工作指導を実施する。

(3) 博物館バックヤード探検ツアー

親子、また一般を対象に、博物館により親しみが持てるよう、博物館の仕組みの説明や、普段公開しない収蔵庫などの博物館のバックヤードを観察する見学会を実施する。5月、7月、8月、11月に各1～2回程度実施。

(4) 夏休みこども工作室

小中学生を中心として、その保護者と共に、リサイクル資材などを活用した工作室を開催する。

(5) こども勾玉つくり工房

小中学生とその保護者を対象にして、勾玉づくりを行う。

5月3日（金・祝）の古墳時代まつりと、7月、8月に計4回程度。

(6) 古代衣裳着用体験

古墳時代・古代の復元衣裳を来館者に着用体験していただく。イベントや他の行事に合わせて開催し、古墳時代・古代への意識を深めていただくために、計3回程度実施予定。

(7) ボランティアの活用・募集、地域ボランティア、各種団体との協働

継続してボランティアを募集し、講演会・体験学習などの事業等、幅広い分野への支援活動を行っていただく。また、南河内地域の観光ボランティアグループとの共同事業を推進する。

6. 近つ飛鳥風土記の丘活用事業

(1) 風土記の丘古墳探検ツアー

小中学生および保護者を対象に、近つ飛鳥風土記の丘の一須賀古墳群を見学する探検ツアーを実施する。5月、11月に各1回程度実施。

(2) 古墳時代まつり「春の博物館であそぼう」

豊かな自然を持つ風土記の丘を活用し、ウォークラリー・勾玉づくり・森の工作・古代衣裳着用体験などを開催する。5月3日（金・祝）。

(3) うめまつり

風土記の丘の梅開花にあわせて、体験や物販販売等、地元団体と連携したイベントを実施する。

(4) さくらまつり

風土記の丘の桜開花にあわせて、体験や物販販売等、地元団体と連携したイベントを実施する。

7. 広報普及事業

(1) 展覧会、イベント開催のポスター・チラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスター・チラシを作成し、学校、公民館をはじめ、各機関に配布する。

(2) マスコミ・ミニコミ紙等への情報提供等

新聞、テレビ、ラジオの報道機関、ミニコミ誌へ積極的に情報を提供する。また、博物館周辺の地域住民へは自治会を通じて情報を提供する。

(3) 機関紙「博物館だより」（アスカディア・古墳の森）の発行

展示会の案内、博物館活動の報告、タイムリーな話題や収蔵品の紹介を掲載して、博物館と府民のコミュニケーションを図るPR誌を年2回発行する。

(4) 校外学習の案内

小・中学校および高等学校の校外学習での利用を促すため、校長会等を通じて案内活動を行う。

(5) 広報の強化

近隣市町の協力を得て、広報誌等に当館の案内やコラム等を掲載し、効率的かつ効果的な広報を行う。また、新聞等の有料広告を効果的に活用する。インターネットの博物館情報サイト等の活用や、共同運営をおこなう近鉄ビルサービス株式会社のグループとの連携により、関連施設での広報展示、パンフレットへの掲載等、より効果的な広報活動を展開する。

8. サービス向上事業

(1) マーケットリサーチ、満足度調査の実施

アンケート等を通して、来館者の博物館に対するニーズを明確にし、今後の事業展開の基礎とする。調査結果を Web サイトにおいて公開する。

(2) ホームページの充実

常設展・特別展・企画展の情報・博物館催し物案内など、近つ飛鳥博物館ホームページから発信する。外国人来館者にも対応できるよう、外国語による情報発信を強化する。また、Facebook 等の SNS を活用した情報発信も継続して進める。

(3) 相談コーナーの設置

週末や企画展等の開催期間を中心に、実物資料に触れることができるコーナーを設置し、かつ、来館者からの文化財に対する様々な疑問に応える。

(4) 催し物案内の作成

府民や各種団体に博物館行事の周知を図り、来館を促すためのチラシを作成する。3か月単位のミュージアムカレンダーを作成し、配布する。

(5) 学芸員による展示解説

講演会開催日に特別展示室において学芸員が展示解説を行うほか、希望に応じて随時展示解説を実施する。

(6) 子どもにもわかりやすい解説

各展覧会で子ども向け解説パネル・リーフレット等を提供する。

(7) 音声ガイドの無料貸出

常設展示の日本語（一般・児童）の他、英語・韓国語・中国語を用意し、外国人利用者へも配慮する。特別展・企画展においては別途、日本語解説を作成する。

(8) 解説リーフレット・シートの配布、図録、館報等の出版

展示観覧の補助となるリーフレット、解説シートを作成する。展示資料の解説や展示内容の理解を深めるため、展覧会図録等を発行し、関係機関に配付する。また、館の

テーマに沿った研究報告、博物館活動についての報告や年間事業記録などを掲載する館報を刊行する。

(9) 遺跡見学ツアー

旅行会社や鉄道会社と連携し、博物館周辺の遺跡と博物館を見学するツアーや遠方へのツアーを共同企画する。

9. 府施策協力事業

(1) 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に伴う諸事業への協力

関連遺跡資料を展示し、古墳群の価値やその歴史的意義の理解の促進に協力する。また、館外での関連事業にも積極的に参加する。

(2) 障がい者等への利用援助

支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験メニューを実施し、障がい者の健康面に配慮し、機器用電源や休憩室を必要に応じて確保する。

10. 管理事業

(1) 日常的管理

指定管理共同企業体の近鉄ビルサービスと共に、施設管理年間計画を策定し、定期点検等、施設管理を行う。また、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案する。

(2) 図書資料管理・収集

学術図書の計画的購入等、資料管理し、収集に務める。各博物館・各都道府県・市町村から寄贈された図書を登録し、書庫へ配架する。また来館者に文化財に関する研究・探究心を深めていただくため、普及啓発用図書や学術図書を計画的に購入し書籍閲覧コーナーの充実をはかる。

(3) 館蔵資料の管理、学術的整理、保管

所蔵資料の適切な管理を実施する。重要文化財「修羅」、紫金山古墳、南塚古墳出土品などについては、所蔵者、研究機関を交えた定期的な点検を実施する。また、館蔵資料の観察記録作成などの資料整理を行う。

(4) 館蔵資料の貸出し

保管する収蔵資料を幅広く活用するために、他の博物館等からの要請により貸出しを行う。

(5) 学芸研修

職員を会議や研修に参加させ、博物館管理・運営の参考とする。

(6) 客員学芸員制度

展示企画・研究活動について実務面での人的な協力体制をつくり、より充実したものとするため、客員学芸員を委嘱する。

(7) ミュージアムスタッフの人材育成

人と人とのふれあいを大切にし、心地よい博物館を目指して、来館者に対する応対を朝礼等で共有する。

(8) 人権研修・消防訓練研修

職員の人権研修を実施する。消防計画に基づいて自衛消防訓練を実施する。

(9) 近つ飛鳥風土記の丘の管理

①日常的管理

園路およびみどりの広場の草刈りおよび清掃、園内施設の清掃等を実施する。

②禁止行為に係る点検

損壊、損傷等の行為に係る点検をする。

③全国風土記の丘協議会への参加

協議会へ出席し、各地の風土記の丘の活用について情報を収集する。

V. 泉佐野市立歴史館いづみさの事業

1. 文化財展示公開事業

(1) 常設展示

泉佐野を代表する歴史遺産である中世荘園の日根荘の時代をテーマにした展示をする。
その時代の人びとのくらしなどを当時の絵図や日記、荘園模型をもとに紹介する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を拡げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

①春季企画展「新収蔵資料展」

ア. 開催趣旨

歴史館いづみさのは平成8年に開館して以降、市民の御協力のもと、農具・民具・古文書・美術作品など数多くの資料が寄贈されている。本展示では平成28年度から令和元年度までに寄贈された新資料を中心に、幅広い分野の資料を展示することにより、歴史館が担っている文化財資料の収集・保存業務の重要性を発信していく。

イ. 開催期間 令和2年4月18日（土）～6月28日（日）

②夏季企画展「（仮）泉佐野の民俗からみた日根荘」

ア. 開催趣旨

泉佐野市には古来より日根神社の「まくら祭」や「ゆ祭」をはじめ、地域に根差した独特的の風習が残されている。これら厄災除けを祈願する祭りは、泉佐野の歴史的な背景や文化に深く根差しており、その原型は中世日根荘の農村景観の中にあったと考えられている。本展覧会では祭をはじめ、現在に残る様々な民俗文化とりあげ、日本の原風景としての日根荘を考察する。

イ. 開催期間 令和2年7月11日（土）～9月29日（日）

③秋季特別展「（仮）大坂城と樫井合戦」

ア. 開催趣旨

古来より交通の要衝であった泉佐野は、天下の行く末が決まった大坂の陣でも軍事物資や兵員輸送の重要な拠点となつた。また泉佐野の樫井は大坂夏の陣の緒戦となつた樫井合戦の故地である。本展覧会では樫井合戦の関連資料をはじめ、大坂方の拠点であった大坂城、幕府方の先鋒、浅野氏の和歌山城から出土した遺物や史料を展示し、織豊期の終焉と江戸期の始まりを考察する。

イ. 開催期間 令和2年10月3日（土）～12月27日（土）

④冬季企画展「(仮)昔の道具展」

ア. 開催趣旨

唐箕や千歯扱などの農具、炭火アイロンなどの生活用品は、道具の技術革新や電気の普及によって現在ではすっかり姿を消した。少し昔には身近な存在であった道具類を展示し、その進歩の足跡をたどる。

イ. 開催期間 令和3年1月23日（土）～3月21日（日）

(3) エントランスホール展示

①歴史館ギャラリー（市民連携活動）

市民の創作活動を発表とする場、他自治体と連携した展示を歴史館ギャラリーとし、絵画、写真等の作品展を自主事業として実施する。

②日根荘コーナー

写真パネル等による展示、日根荘に関連したこども向けのクイズを設け、大人からこどもまで幅広い世代に日根荘の重要性、歴史を知ってもらうコーナーを設置する。

③さわれる民具コーナー

近世の民具や近代の道具などのコーナーを設け、こどもたちに積極的に触れてもらい、昔の生活の学習に供する。

④図書閲覧コーナー

郷土史の理解を深めるため、郷土の歴史文化を中心とした図書を集めて市民が自由に閲覧できるコーナーを設ける。

2. 講演会事業

(1) 特別展・企画展関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。

(2) 学芸員による展示解説

講演会開催日に特別展示室において学芸員が展示解説を行うほか、随時展示解説を実施する。

(3) 館長講演会

年に2回、館長による講演会を行う。

(4) 歴史学講座

文化史・宗教史編、戦国史編、政治史編に分けて開催する。今年度の文化・宗教史編では、昨年度に引き続き、生活や俗信に深い影響を与えた陰陽道や、九条家が重用し

た陰陽師についてとりあげ、神道・修驗道と陰陽道の関わりについて考える。戦国史編は戦国時代をテーマに当時の社会世相や戦乱について取り上げる。

(5) 古文書講座

初級編と応用編に分けて開催する。初級編は、古文書に親しんでもらうこと目標とし、応用編においては、中・近世を題材として実施する。

(6) 学芸員の出張講演・講座

他施設において、講演会等を実施し、歴史館いずみさのの知名度アップを図り、多くの方々の来館を促進する。

3. 体験学習事業

(1) 小中学校の団体見学受け入れ

各学校と連携し、学芸員が展示解説を行い、展示室での生徒の学習を支援する。

(2) 出前授業

幼稚園児から高校生に至るまで、館や郷土の歴史・民俗に親しみをもってもらうため、学芸員等が学校に出かけ、体験学習等を行う。

(3) 土曜れきし館ワークショップ

毎月1回をめどに、土曜日に児童向けの体験学習事業を開催する。スタンプカードを作成し、継続的な学習、来館を促進する。

(4) いずみさの歴史ウォーク

郷土の史跡や文化財をめぐる歴史ウォークを行う。

(5) でかける歴史館

他施設において、講演会や体験学習事業等を実施し、歴史館いずみさのの知名度アップを図り、多くの方々の来館を促進する。

4. 資料収集・提供事業

(1) 「れきし相談コーナー」の設置

市民からの歴史・考古学に関する質問や相談等にきめ細やかに対応する。

(2) 展覧会、イベント開催のポスター・チラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスター・チラシを作成し、学校、公民館をはじめ、各機関に配布する。

(3) 『歴史通信いずみさの』の刊行

館の活動を報告し、博物館に対する市民の理解を得るために定期的に『歴史通信いず

みさの』を刊行する。

(4) 歴史館紹介ちらしの配付

出前授業で学校を訪問した際には、生徒々に来館を促すちらしを配付し、小・中学生を中心とする子どもたちが家族で歴史館に来館する動機づけを進める。

(5) 広報活動の活発な展開

館行事を広く周知するため、フェイスブックに行事の告知や実施報告記事を掲載し、泉佐野市の広報誌『広報いずみさの』に行事を随時掲載するほか、泉佐野市政記者クラブに情報提供とともに、ミニコミ誌などを用い、広くPRする。南海電鉄の情報誌『NATTS』にも情報を提供し、広報活動を充実する。また、新聞社やテレビ局へ情報提供する。

(6) 資料等の貸出

当館所蔵の資料（実物・復元・写真・映像等）を全国各地の博物館等へ貸出し、所蔵資料を活用するとともに、各方面へ日根荘をはじめとする泉佐野市に関する情報を発信する。

(7) 寄贈等された図書の登録

各博物館・市町村等から歴史館へ寄贈等された図書を台帳に登録し、書庫に開架する。

(8) 満足度調査の実施

よりよい館運営を行うため、展示室にアンケートを設置し、講演会ではアンケート用紙を配付し、来館者の要望や展示・講演会への意見等の把握に務めた。

5. 人材育成事業

(1) 博学連携事業の推進

職場体験や博物館実習等の要請を受け入れる。

(2) ミュージアムスタッフの人材育成研修

人と人とのふれあいを大切にし、心地よい博物館を目指して、来館者に対する応対マナーの研修を実施する。

(3) ボランティア活動（市民が参加する歴史館）

広く市民ボランティアを募集し、市民とともに博物館事業を推進していく。

6. 施設管理事業

(1) 資料の保管

展示室、一般収蔵庫、特別収蔵庫の温度湿度を常時監視し、適温適湿の維持に務める。

一般収蔵庫と特別収蔵庫においては燻蒸処理を年2回実施する。

(2) 施設（備品）の維持管理

館内施設（備品）を適切な状態に保つよう務める。

(3) 施設の利用許可対応

研修室の利用許可の対応を行う。

(4) 市との意見交換の実施

管理運営に関する協議や意見交換を定期的に実施する。

(5) 日本遺産ガイダンスセンター工事への対応

泉佐野市がすすめる歴史館いずみさの内、日本遺産ガイダンスセンター展示改修に伴い、資料提供他、工事スケジュールに対応する。

7. 書籍の販売協力

泉佐野市刊行の常設展、特別展の図録等の書籍の販売に協力する。

VI. 日本民家集落博物館事業

1. 展示公開事業

一般府民への普及啓発と博物館の研究成果の公開のために、特別展又は企画展を開催する。また、展示室を一般府民に開放し、市民展示も開催する。

(1) 常設展示

国指定重要文化財 3 件、国指定重要有形民俗文化財 1 件、国登録文化財 3 件、大阪府指定有形文化財 4 件、大阪府指定有形民俗文化財 1 件を展示公開する。「むかしのくらし展示」では民具を展示すると共に昭和 30 年代の一部屋を再現し、公開する。石臼体験コーナーを併設する。

(2) 市民展示

地域の文化サークルや団体向けにセミナーハウス、堂島の米蔵を開放し、ギャラリーとして活用することにより地域に開かれた博物館を目指す。

①「同友会写真クラブ展」

- ア. 内 容 豊中市退職教職員者同友会写真による、民家の写真展。
イ. 開催期間 令和 2 年 3 月 28 日（土）～4 月 5 日（日）

②「春のてまり展」

- ア. 内 容 日本手まりの会「都てまり」製作による、色鮮やかな手まり作品展。
イ. 開催期間 令和 2 年 4 月 4 日（土）～4 月 19 日（日）

③ 西野誠一切り絵展「御所人形」

- ア. 内 容 西野誠一による、愛らしい御所人形をテーマにした切り絵作品展。
イ. 開催期間 令和 2 年 5 月 2 日（土）～5 月 31 日（日）

(3) 企画展「能・狂言の世界展 3」

- ア. 内 容 能・狂言面の展示や能面を身に着ける体験等の開催とともに、海外からの来館者にも親しみやすく、日本文化を紹介する作品展。
イ. 開催期間 令和 2 年 11 月（予定）

2. 講演会解説事業

(1) 民家解説

展示民家について、ボランティアによる解説を行う。

(2) 「むかしのおうちを巡ろう」

- ア. 内 容 館長をはじめ、博物館職員による民家解説見学会を開催する。
イ. 開催日 令和 2 年 6 月 7 日（日）、14 日（日）

3. 体験学習・学校教育連携事業

(1) 夏休み親子企画「昔の暮らしについて学ぼう」

①白川郷の2階をのぞいてみよう

- ア. 内 容 小学生の親子を対象に白川の民家の屋根裏を公開し、解説を行う。
イ. 開 催 日 令和2年7月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)、
8月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)、15日(土)、
16日(日)、22日(土)、23日(日)、29日(土)、30日(日)

②なぞり書きと民家のぬり絵

- ア. 内 容 小学生の親子を対象に民家の縁側で、「奥の細道」や童謡などのなぞり書き体験や、民家と昔の暮らしを描いたイラストのぬり絵体験を行う。

イ. 開 催 日 令和2年7月18日(土)～8月30日(日)

③紙すき体験

- ア. 内 容 小学生の親子を対象に、紙すきの体験を行う。
イ. 開 催 日 令和2年8月29日(土)

④まゆから糸つむぎ・真綿づくり体験

- ア. 内 容 白川の民家で、小学生の親子を対象に、博物館でとれた蚕のまゆから糸つむぎ、真綿作りの体験を行う。
イ. 開 催 日 令和2年8月22日(土)

⑤まゆ地蔵づくり体験

- ア. 内 容 小学生の親子を対象に、博物館でとれた蚕のまゆからまゆ人形を作る体験を行う。
イ. 開 催 日 令和2年8月22日(土)

(2) 季節行事

日本の四季折々の歳時記にちなんだ催し(お雑煮会、正月飾り展、雛飾り、鯉のぼり・5月人形、七夕飾り、お盆飾り等)を行う。

(3) 囲炉裏体験

展示民家において、ボランティアによる囲炉裏体験を行う。

(4) 参加体験型事業

親子笛掘り体験、親子芋掘り体験、石臼体験、コマ遊び、紙すき体験、養蚕体験、餅つき体験等、入館者の参加・体験型の催しを行う。

(5) 伝統文化体験教室

「こども囲碁クラブ」を開催し、こどもたちが日本の伝統文化に慣れ親しむ場を提供する。(ライフスポーツ財団助成事業)

(6) 小学校の体験学習

小学3年生社会科「昔のくらし」・4年生社会科「暮らしの移りかわり」単元と連動し、民家や民具を活用した「みんなむかしのくらし体験学習」を実施し、地域の学校や教育機関との連携を拡大する。

(7) 中学生の職場体験学習

中学生の職場体験学習を受け入れ、地域の学校との連携を深める。

4. 資料収集・提供事業

(1) 資料収集・研究

移築民家や収蔵民具に関する資料を収集するとともに、地域住民と連携し、広く情報を募りながら必要な資料の収集・研究を行う。

(2) 展示民家を提供・活用

各種コンサート、お茶会、昔話を聞く会、ゆかた・着物着付け体験、和太鼓演奏体験、昔の遊び体験等の開催により、展示民家を活用しながら入館者に公開する催しを行う。一部の催しは地域の文化サークルや団体との共催とし、民家を会場として提供する。あわせて、「大和十津川の民家」「南部の曲家」「北河内の茶室」を貸部屋として提供することで、民家により親しんでもらうための活用を図る。

(3) 関係書籍・博物館記念物品の頒布

展示資料の理解を深めるため、関係書籍等を頒布する。また、博物館を身近に感じてもらうために博物館記念物品を希望者に頒布する。

5. 人材育成事業

(1) ボランティア活動の促進

ボランティアを募集し、その援助により館の諸活動の充実を期するとともに、地域社会に生涯学習の場を提供する。「勉強会」「交流会」などの機会を設けてボランティアとのコミュニケーションを深め、活動の促進をはかる。

(2) 大学博物館実習

大学の博物館実習生を受け入れ、学習の場を提供し、館の普及活動の一助とする。

6. 文化財普及・広報事業

(1) 特別行事

日向椎葉の民家を会場に、「宮沢賢治童話語り」を開催する。また、服部緑地 10月祭への協賛・参加事業を企画実施する。

開催日 令和2年6月7日(日)

(2) 広報リーフレットの作成

「催し案内」を定期的に作成し、関係機関・団体に配布し広報に努める。新規来館者を増やすため、近隣老人施設、写真や絵画のサークルなどに「催し案内」を配布する。

(3) インターネットによる広報

当館の概要や催し案内をホームページで広報し、PRの充実に努める。

(4) DVD・ビデオによる広報

「堂島の米蔵」に、博物館紹介のDVD・ビデオの視聴コーナーを設ける。また、学校等にDVD・ビデオの貸出を行い広報に努める。

(5) 諸団体との連携

豊中市広報公聴課、地元ケーブルテレビ、FMラジオ、ミニコミ紙、阪急電鉄、北大阪急行電鉄、服部緑地公園管理事務所、都市緑化植物園、服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会等と連携し、効果的な広報に努める。また、府教職員互助組合等各種団体のメディアを通じての広報の協力を依頼する。NPO法人シニア自然大学校と連携し、ジュニア自然大学「服部緑地こどもゆめくらぶ」の活動に協力し、博物館の利用促進をはかる。

(6) 資料の作成・頒布

「民家の案内」「民俗」(上・下巻)「旧椎葉家住宅主屋・馬屋保存修理工事報告書」を頒布する。また、小中学生向け案内マップ及び英語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語による案内マップを作成し配付する。

7. 保存修理・施設整備事業

(1) 国重要文化財 信濃秋山の民家（旧山田家住宅）保存修理工事

経年劣化が進行している秋山の民家について、屋根全面葺替及び部分修理の保存修理工事を実施する。工事は耐震診断を実施した上で、耐震補強について検討する。工事は令和3年度までの2か年度事業を予定しており、文化庁の補助金を申請する予定である。

(2) 施設整備

展示民家の維持保存に悪影響を及ぼす樹木の伐採、見学者の安全に配慮した園路・階段などの整備を行う。

令和2年度 収支予算書

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和2年度
収支(正味財産増減)予算書 内訳表

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和2年度 収支(正味財産増減)予算書 内訳表

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	法人会計	合 計	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	1,924,000	0	1,924,000	
基本財産運用益計	1,924,000	0	1,924,000	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	10,670,000	0	10,670,000	
特定資産運用益計	10,670,000	0	10,670,000	
③ 受取会費				
受取会費等振替額	1,110,000	0	1,110,000	
受取会費計	1,110,000	0	1,110,000	
④ 事業収益				
入館料収益	14,184,000	0	14,184,000	
受託事業収益	685,660,000	17,238,000	702,898,000	
講座等参加料収益	852,000	0	852,000	
書籍販売等収益	5,500,000	0	5,500,000	
受託販売手数料収益	700,000	0	700,000	
施設利用料等収益	1,200,000	0	1,200,000	
博物館実習受入収益	180,000	0	180,000	
講師料収益	635,000	0	635,000	
事業収益計	708,911,000	17,238,000	726,149,000	
⑤ 受取補助金等				
受取国庫文化財保存修理補助金	3,027,000	0	3,027,000	
受取府運営費補助金	7,304,000	0	7,304,000	
受取府管理費補助金	47,000	0	47,000	
受取助成金	250,000	0	250,000	
受取補助金等振替額	110,000	0	110,000	
受取補助金等計	10,738,000	0	10,738,000	
⑥ 受取寄附金				
受取寄附金	50,000	0	50,000	
受取寄附金等振替額	1,170,357	0	1,170,357	
受取寄附金計	1,220,357	0	1,220,357	
⑦ 雜収益				
受取利息	3,000	0	3,000	
受取出向料	531,000	0	531,000	
雑収益	481,000	0	481,000	
雑収益計	1,015,000	0	1,015,000	
経常収益計	735,588,357	17,238,000	752,826,357	

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	法人会計	合 計	備 考
(2) 経常費用				
① 事業費				
役員報酬	2,911,000	0	2,911,000	
給料手当	248,053,822	0	248,053,822	
賃金	187,699,000	0	187,699,000	
期末勤勉手当引当金繰入額	28,289,272	0	28,289,272	
退職給付費用	19,921,416	0	19,921,416	
福利厚生費	65,230,377	0	65,230,377	
交際費	24,000	0	24,000	
会議費	8,000	0	8,000	
広告費	500,000	0	500,000	
旅費交通費	2,254,000	0	2,254,000	
通信運搬費	4,336,000	0	4,336,000	
棚卸資産売上原価	3,000,000	0	3,000,000	
減価償却費	22,886,399	0	22,886,399	
図書購入費	400,000	0	400,000	
備品購入委託費	300,000	0	300,000	
消耗品費	18,181,000	0	18,181,000	
光熱水料費	28,478,000	0	28,478,000	
修繕費	1,511,000	0	1,511,000	
印刷製本費	13,056,000	0	13,056,000	
賃借料	11,469,000	0	11,469,000	
支払手数料	755,000	0	755,000	
保険料	1,484,000	0	1,484,000	
報償費	1,884,000	0	1,884,000	
租税公課	1,226,000	0	1,226,000	
支払負担金	725,000	0	725,000	
委託費	92,207,000	0	92,207,000	
分配金費	45,310,000	0	45,310,000	
委託販売手数料	200,000	0	200,000	
雑費	814,000	0	814,000	
事業費計	803,113,286	0	803,113,286	
② 管理費				
役員報酬	0	719,000	719,000	
給料手当	0	8,779,000	8,779,000	
賃金	0	1,070,000	1,070,000	
期末勤勉手当引当金繰入額	0	926,000	926,000	
退職給付費用	0	465,000	465,000	
福利厚生費	0	1,532,000	1,532,000	
交際費	0	6,000	6,000	
会議費	0	2,000	2,000	
旅費交通費	0	71,000	71,000	
通信運搬費	0	159,000	159,000	
減価償却費	0	682,000	682,000	
消耗品費	0	504,000	504,000	
光熱水料費	0	64,000	64,000	
修繕費	0	40,000	40,000	
印刷製本費	0	102,000	102,000	
賃借料	0	477,000	477,000	

(単位 円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計	備 考
支払手数料	0	110,000	110,000	
保険料	0	59,000	59,000	
報償費	0	171,000	171,000	
租税公課	0	220,000	220,000	
支払負担金	0	4,000	4,000	
委託費	0	1,070,000	1,070,000	
雑費	0	6,000	6,000	
管理費計	0	17,238,000	17,238,000	
経常費用計	803,113,286	17,238,000	820,351,286	
当期経常増減額	△ 67,524,929	0	△ 67,524,929	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 67,524,929	0	△ 67,524,929	
一般正味財産期首残高	1,315,305,074	0	1,315,305,074	
一般正味財産期末残高	1,247,780,145	0	1,247,780,145	
II 指定正味財産増減の部				
① 特定資産運用益				
特定資産受取利息	1,000	0	1,000	
特定資産運用益計	1,000	0	1,000	
② 受取会費				
受取賛助会費	1,110,000	0	1,110,000	
受取会費計	1,110,000	0	1,110,000	
③ 受取寄附金				
募金収益	200,000	0	200,000	
受取寄附金計	200,000	0	200,000	
④ 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 2,381,357	0	△ 2,381,357	
当期指定正味財産増減額	△ 1,070,357	0	△ 1,070,357	
指定正味財産期首残高	210,374,696	0	210,374,696	
指定正味財産期末残高	209,304,339	0	209,304,339	
III 正味財産期末残高	1,457,084,484	0	1,457,084,484	

令和2年度 収支(正味財産増減)予算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(公益目的事業会計)

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	1,924,000	1,925,000	△ 1,000	
基本財産運用益計	1,924,000	1,925,000	△ 1,000	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	10,670,000	10,966,000	△ 296,000	
特定資産運用益計	10,670,000	10,966,000	△ 296,000	
③ 受取会費				
受取会費等振替額	1,110,000	0	1,110,000	
受取会費計	1,110,000	0	1,110,000	
④ 事業収益				
入館料収益	14,184,000	15,630,000	△ 1,446,000	
受託事業収益	685,660,000	696,900,000	△ 11,240,000	
講座等参加料収益	852,000	1,083,000	△ 231,000	
書籍販売等収益	5,500,000	5,500,000	0	
受託販売手数料収益	700,000	700,000	0	
施設利用料等収益	1,200,000	950,000	250,000	
博物館実習受入収益	180,000	186,000	△ 6,000	
講師料収益	635,000	611,000	24,000	
事業収益計	708,911,000	721,560,000	△ 12,649,000	
⑤ 受取補助金等				
受取国庫文化財保存修理補助金	3,027,000	0	3,027,000	
受取府運営費補助金	7,304,000	7,304,000	0	
受取府管理費補助金	47,000	47,000	0	
受取助成金	250,000	950,000	△ 700,000	
受取補助金等振替額	110,000	132,000	△ 22,000	
受取補助金等計	10,738,000	8,433,000	2,305,000	
⑥ 受取寄附金				
受取寄附金	50,000	50,000	0	
受取寄附金等振替額	1,170,357	1,151,358	18,999	
受取寄附金計	1,220,357	1,201,358	18,999	
⑦ 雜収益				
受取利息	3,000	3,000	0	
受取出向料	531,000	10,720,000	△ 10,189,000	
雑収益	481,000	503,000	△ 22,000	
雑収益計	1,015,000	11,226,000	△ 10,211,000	
経常収益計	735,588,357	755,311,358	△ 19,723,001	

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
(2) 経常費用				
① 事業費				
役員報酬	2,911,000	2,904,000	7,000	
給料手当	248,053,822	243,787,967	4,265,855	
賃金	187,699,000	164,382,000	23,317,000	
期末勤勉手当引当金繰入額	28,289,272	29,324,801	△ 1,035,529	
退職給付費用	19,921,416	29,463,424	△ 9,542,008	
福利厚生費	65,230,377	61,375,761	3,854,616	
交際費	24,000	0	24,000	
会議費	8,000	0	8,000	
広告費	500,000	1,205,000	△ 705,000	
旅費交通費	2,254,000	2,366,000	△ 112,000	
通信運搬費	4,336,000	4,560,000	△ 224,000	
棚卸資産売上原価	3,000,000	3,000,000	0	
減価償却費	22,886,399	22,959,400	△ 73,001	
図書購入費	400,000	198,000	202,000	
備品購入委託費	300,000	1,506,000	△ 1,206,000	
消耗品費	18,181,000	19,334,000	△ 1,153,000	
光熱水料費	28,478,000	32,650,000	△ 4,172,000	
修繕費	1,511,000	2,642,000	△ 1,131,000	
印刷製本費	13,056,000	10,136,000	2,920,000	
賃借料	11,469,000	10,950,000	519,000	
支払手数料	755,000	696,000	59,000	
保険料	1,484,000	1,613,000	△ 129,000	
報償費	1,884,000	1,660,000	224,000	
租税公課	1,226,000	1,471,000	△ 245,000	
支払負担金	725,000	749,000	△ 24,000	
委託費	92,207,000	40,176,000	52,031,000	
分配金費	45,310,000	43,586,000	1,724,000	
工事請負費	0	7,115,000	△ 7,115,000	
委託販売手数料	200,000	150,000	50,000	
雑費	814,000	881,000	△ 67,000	
事業費計	803,113,286	740,841,353	62,271,933	
経常費用計	803,113,286	740,841,353	62,271,933	
当期経常増減額	△ 67,524,929	14,470,005	△ 81,994,934	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 67,524,929	14,470,005	△ 81,994,934	
一般正味財産期首残高	1,315,305,074	1,300,835,069	14,470,005	
一般正味財産期末残高	1,247,780,145	1,315,305,074	△ 67,524,929	

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
II 指定正味財産増減の部				
① 特定資産運用益				
特定資産受取利息	1,000	1	999	
特定資産運用益計	1,000	1	999	
② 受取会費				
受取賛助会費	1,110,000	1,060,000	50,000	
受取会費計	1,110,000	1,060,000	50,000	
③ 受取寄附金				
受取寄附金	0	120,000	△ 120,000	
募金収益	200,000	230,000	△ 30,000	
受取寄附金計	200,000	350,000	△ 150,000	
④ 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 2,381,357	△ 1,283,358	△ 1,097,999	
当期指定正味財産増減額	△ 1,070,357	126,643	△ 1,197,000	
指定正味財産期首残高	210,374,696	210,248,053	126,643	
指定正味財産期末残高	209,304,339	210,374,696	△ 1,070,357	
III 正味財産期末残高	1,457,084,484	1,525,679,770	△ 68,595,286	

令和2年度 収支(正味財産増減)予算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(法人会計)

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 事業収益				
受託事業収益	17,238,000	16,680,000	558,000	
事業収益計	17,238,000	16,680,000	558,000	
経常収益計	17,238,000	16,680,000	558,000	
(2) 経常費用				
① 管理費				
役員報酬	719,000	717,000	2,000	
給料手当	8,779,000	8,863,000	△ 84,000	
賃金	1,070,000	681,000	389,000	
期末勤勉手当引当金繰入額	926,000	922,000	4,000	
退職給付費用	465,000	482,000	△ 17,000	
福利厚生費	1,532,000	1,558,000	△ 26,000	
交際費	6,000	0	6,000	
会議費	2,000	0	2,000	
旅費交通費	71,000	69,000	2,000	
通信運搬費	159,000	149,000	10,000	
減価償却費	682,000	666,000	16,000	
消耗品費	504,000	462,000	42,000	
光熱水料費	64,000	59,000	5,000	
修繕費	40,000	22,000	18,000	
印刷製本費	102,000	93,000	9,000	
賃借料	477,000	463,000	14,000	
支払手数料	110,000	106,000	4,000	
保険料	59,000	55,000	4,000	
報償費	171,000	170,000	1,000	
租税公課	220,000	290,000	△ 70,000	
支払負担金	4,000	3,000	1,000	
委託費	1,070,000	846,000	224,000	
雑費	6,000	4,000	2,000	
管理費計	17,238,000	16,680,000	558,000	
経常費用計	17,238,000	16,680,000	558,000	
当期経常増減額	0	0	0	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	

科 目	予算額	前年度予算額	増減	(単位 円) 備考
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	
一般正味財産期首残高	0	0	0	
一般正味財産期末残高	0	0	0	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	0	0	0	

令和2年度
資金収支予算書 内訳表

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和2年度 資金収支予算書 内訳表

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計	(単位 千円)
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 基本財産運用収入 基本財産利息収入 基本財産運用収入計	1,924	0	0	1,924	
	1,924	0	0	1,924	
② 特定資産運用収入 特定資産利息収入 特定資産運用収入計	10,671	0	0	10,671	
	10,671	0	0	10,671	
③ 会費収入 賛助会費収入 会費収入計	1,110	0	0	1,110	
	1,110	0	0	1,110	
④ 事業収入 入館料収入 受託事業収入 講座等参加料収入 書籍販売等収入 受託販売手数料収入 施設利用料等収入 博物館実習受入収入 講師料収入 事業収入計	14,184 685,660 852 5,500 700 1,200 180 635	0 17,238 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	14,184 702,898 852 5,500 700 1,200 180 635	
	708,911	17,238	0	726,149	
⑤ 補助金等収入 国庫文化財保存修理補助金収入 府運営費補助金収入 府管理費補助金収入 助成金収入 補助金等収入計	3,027 7,304 47 250	0 0 0 0	0 0 0 0	3,027 7,304 47 250	
	10,628	0	0	10,628	
⑥ 寄附金収入 寄附金収入 募金収入 寄附金収入計	50 200	0 0	0 0	50 200	
	250	0	0	250	
⑦ 雑収入 受取利息収入 受取出向料収入 雑収入 雑収入計	3 531 481	0 0 0	0 0 0	3 531 481	
	1,015	0	0	1,015	
⑧ 他会計からの繰入金収入 法人会計からの繰入金収入 他会計からの繰入金収入計 事業活動収入計	1,153	0	△ 1,153	0	
	1,153	0	△ 1,153	0	
	735,662	17,238	△ 1,153	751,747	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出					
役員報酬支出 給料手当支出 賃金支出 退職給付支出	2,911 273,324 187,699 96,503	0 0 0 0	0 0 0 0	2,911 273,324 187,699 96,503	

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計	備考
福利厚生費支出	69,286	0	0	69,286	
交際費支出	24	0	0	24	
会議費支出	8	0	0	8	
広告費支出	500	0	0	500	
旅費交通費支出	2,254	0	0	2,254	
通信運搬費支出	4,336	0	0	4,336	
棚卸資産購入費支出	2,500	0	0	2,500	
図書購入費支出	400	0	0	400	
備品購入委託費支出	300	0	0	300	
消耗品費支出	18,181	0	0	18,181	
光熱水料費支出	28,478	0	0	28,478	
修繕費支出	1,511	0	0	1,511	
印刷製本費支出	13,056	0	0	13,056	
賃借料支出	11,469	0	0	11,469	
支払手数料支出	755	0	0	755	
保険料支出	1,484	0	0	1,484	
報償費支出	1,884	0	0	1,884	
租税公課支出	1,226	0	0	1,226	
負担金支出	725	0	0	725	
委託費支出	92,207	0	0	92,207	
分配金支出	45,310	0	0	45,310	
委託販売手数料支出	200	0	0	200	
雑支出	814	0	0	814	
事業費支出計	857,345	0	0	857,345	
② 管理費支出					
役員報酬支出	0	719	0	719	
給料手当支出	0	9,573	0	9,573	
賃金支出	0	1,070	0	1,070	
福利厚生費支出	0	1,658	0	1,658	
交際費支出	0	6	0	6	
会議費支出	0	2	0	2	
旅費交通費支出	0	71	0	71	
通信運搬費支出	0	159	0	159	
消耗品費支出	0	504	0	504	
光熱水料費支出	0	64	0	64	
修繕費支出	0	40	0	40	
印刷製本費支出	0	102	0	102	
賃借料支出	0	477	0	477	
支払手数料支出	0	110	0	110	
保険料支出	0	59	0	59	
報償費支出	0	171	0	171	
租税公課支出	0	220	0	220	
負担金支出	0	4	0	4	
委託費支出	0	1,070	0	1,070	
雑支出	0	6	0	6	
管理費支出計	0	16,085	0	16,085	
③ 他会計への繰入金支出					
埋蔵文化財調査事業会計への繰入金支出	0	1,153	△ 1,153	0	
他会計への繰入金支出計	0	1,153	△ 1,153	0	
事業活動支出計	857,345	17,238	△ 1,153	873,430	
事業活動収支差額	△ 121,683	0	0	△ 121,683	

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計	備考
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
① 特定資産取崩収入					
退職給付引当資産取崩収入	96,503	0	0	96,503	
減価償却引当資産取崩収入	16,340	0	0	16,340	
固定資産購入等積立資産取崩収入	24,280	0	0	24,280	
大規模改修積立資産取崩収入	2,752	0	0	2,752	
修繕積立資産取崩収入	100	0	0	100	
特定資産取崩収入計	139,975	0	0	139,975	
投資活動収入計	139,975	0	0	139,975	
2. 投資活動支出					
① 特定資産取得支出					
退職給付引当資産取得支出	14,705	0	0	14,705	
減価償却引当資産取得支出	22,188	0	0	22,188	
大規模改修積立資産取得支出	1,110	0	0	1,110	
修繕積立資産取得支出	200	0	0	200	
文化財普及基金取得支出	1	0	0	1	
特定資産取得支出計	38,204	0	0	38,204	
② 固定資産取得支出					
什器備品購入支出	1,750	0	0	1,750	
固定資産取得支出計	1,750	0	0	1,750	
投資活動支出計	39,954	0	0	39,954	
投資活動収支差額	100,021	0	0	100,021	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	1,340	0	0	1,340	
前期繰越収支差額	△ 23,002	0	0	△ 23,002	
次期繰越収支差額	23,932	0	0	23,932	
	930	0	0	930	

令和2年度 資金収支予算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(公益目的事業会計)

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	1,924	1,925	△ 1	
基本財産運用収入計	1,924	1,925	△ 1	
② 特定資産運用収入				
特定資産利息収入	10,671	10,966	△ 295	
特定資産運用収入計	10,671	10,966	△ 295	
③ 会費収入				
賛助会費収入	1,110	1,060	50	
会費収入計	1,110	1,060	50	
④ 事業収入				
入館料収入	14,184	15,630	△ 1,446	
受託事業収入	685,660	696,900	△ 11,240	
講座等参加料収入	852	1,083	△ 231	
書籍販売等収入	5,500	5,500	0	
受託販売手数料収入	700	700	0	
施設利用料等収入	1,200	950	250	
博物館実習受入収入	180	186	△ 6	
講師料収入	635	611	24	
事業収入計	708,911	721,560	△ 12,649	
⑤ 補助金等収入				
国庫文化財保存修理補助金収入	3,027	0	3,027	
府運営費補助金収入	7,304	7,304	0	
府管理費補助金収入	47	47	0	
助成金収入	250	250	0	
補助金等収入計	10,628	7,601	3,027	
⑥ 寄附金収入				
寄附金収入	50	170	△ 120	
募金収入	200	230	△ 30	
寄附金収入計	250	400	△ 150	
⑦ 雑収入				
受取利息収入	3	3	0	
受取出向料収入	531	10,720	△ 10,189	
雑収入	481	503	△ 22	
雑収入計	1,015	11,226	△ 10,211	
⑧ 他会計からの繰入金収入				
法人会計からの繰入金収入	1,153	1,356	△ 203	
他会計からの繰入金収入計	1,153	1,356	△ 203	
事業活動収入計	735,662	756,094	△ 20,432	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
役員報酬支出	2,911	2,904	7	
給料手当支出	273,324	268,845	4,479	
賃金支出	187,699	164,382	23,317	

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
退職給付支出	96,503	0	96,503	
福利厚生費支出	69,286	65,359	3,927	
交際費支出	24	0	24	
会議費支出	8	0	8	
広告費支出	500	1,205	△ 705	
旅費交通費支出	2,254	2,366	△ 112	
通信運搬費支出	4,336	4,560	△ 224	
棚卸資産購入費支出	2,500	2,500	0	
図書購入費支出	400	198	202	
備品購入委託費支出	300	1,506	△ 1,206	
消耗品費支出	18,181	19,334	△ 1,153	
光熱水料費支出	28,478	32,650	△ 4,172	
修繕費支出	1,511	2,642	△ 1,131	
印刷製本費支出	13,056	10,136	2,920	
賃借料支出	11,469	10,950	519	
支払手数料支出	755	696	59	
保険料支出	1,484	1,613	△ 129	
報償費支出	1,884	1,660	224	
租税公課支出	1,226	1,471	△ 245	
負担金支出	725	749	△ 24	
委託費支出	92,207	40,176	52,031	
分配金支出	45,310	43,586	1,724	
工事請負費支出	0	7,115	△ 7,115	
委託販売手数料支出	200	150	50	
雑支出	814	881	△ 67	
事業費支出計	857,345	687,634	169,711	
事業活動支出計	857,345	687,634	169,711	
事業活動収支差額	△ 121,683	68,460	△ 190,143	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
退職給付引当資産取崩収入	96,503	0	96,503	
減価償却引当資産取崩収入	16,340	43,346	△ 27,006	
固定資産購入等積立資産取崩収入	24,280	0	24,280	
大規模改修積立資産取崩収入	2,752	0	2,752	
修繕積立資産取崩収入	100	81	19	
特定資産取崩収入計	139,975	43,427	96,548	
② 敷金・保証金戻り収入				
敷金戻り収入	0	62	△ 62	
保証金戻り収入	0	30	△ 30	
敷金・保証金戻り収入計	0	92	△ 92	
投資活動収入計	139,975	43,519	96,456	
2. 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	14,705	29,365	△ 14,660	
減価償却引当資産取得支出	22,188	28,109	△ 5,921	
調査事務所用地取得資産取得支出	0	30,066	△ 30,066	
大規模改修積立資産取得支出	1,110	1,060	50	
修繕積立資産取得支出	200	230	△ 30	
文化財普及基金取得支出	1	1	0	
近つ飛鳥活性化事業積立資産取得支出	0	120	△ 120	
特定資産取得支出計	38,204	88,951	△ 50,747	
② 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	1,750	13,280	△ 11,530	
固定資産取得支出計	1,750	13,280	△ 11,530	

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
投資活動支出計	39,954	102,231	△ 62,277	
投資活動収支差額	100,021	△ 58,712	158,733	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	1,340	1,340	0	
当期収支差額	△ 23,002	8,408	△ 31,410	
前期繰越収支差額	23,932	15,524	8,408	
次期繰越収支差額	930	23,932	△ 23,002	

令和2年度 資金収支予算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(法人会計)

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 事業収入				
受託事業収入	17,238	16,680	558	
事業収入計	17,238	16,680	558	
事業活動収入計	17,238	16,680	558	
2. 事業活動支出				
① 管理費支出				
役員報酬支出	719	717	2	
給料手当支出	9,573	9,481	92	
賃金支出	1,070	681	389	
福利厚生費支出	1,658	1,654	4	
交際費支出	6	0	6	
会議費支出	2	0	2	
旅費交通費支出	71	69	2	
通信運搬費支出	159	149	10	
消耗品費支出	504	462	42	
光熱水料費支出	64	59	5	
修繕費支出	40	22	18	
印刷製本費支出	102	93	9	
賃借料支出	477	463	14	
支払手数料支出	110	106	4	
保険料支出	59	55	4	
報償費支出	171	170	1	
租税公課支出	220	290	△ 70	
負担金支出	4	3	1	
委託費支出	1,070	846	224	
雑支出	6	4	2	
管理費支出計	16,085	15,324	761	
② 他会計への繰入金支出				
埋蔵文化財調査事業会計への繰入金支出	1,153	1,356	△ 203	
他会計への繰入金支出計	1,153	1,356	△ 203	
事業活動支出計	17,238	16,680	558	
事業活動収支差額	0	0	0	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	